



(除雪しているようす)

風雪などのさい害をふせぐ 人々の生活は、季節きせつや気候きこうのじょうけんによって、いつさい害にあうかわかりません。そのさい害から、人の命やぎいさんを守り、安心して生活ができるように、消防しよや村役場、県や国とれんらくをとり、話し合って、ふだんから、さい害のぼうしにつとめています。

大玉村では、四月下じゅんから五月中じゅんと、十月下じゅんごろ、ときどきおそじもにあい、農作物に大きなひ害をおよぼすことがあって、農家の人々を困らせることがあります。

また、一九八一年(昭和五十六年六月)に台風十五号が福島を横切ったとき、大玉村でも大きなひ害にあいました。ひ害がくは約四億三千万円にものぼりました。また一九八九年(平成元年八月)に台風十三号にみまわれ、ひ害がくは一億四千万円にたっしました。

奥羽山脈のふもとにあって、冬は寒さむく、大雪になることもある大玉村では、じよ雪などをして交通がみがみだれないように努力しています。